

文化財だより

第 9 号

平成8年3月
発行 真鶴町教育委員会

特集

真鶴の石造物

(一) 道祖神

真鶴町には十一か所二十五基の道祖神が存在することが確認されています。今回の特集では、路傍に祀られた道祖神をとりあげてみました。

道祖神信仰

の背景

どんな内容の神(信仰)ですか。

道祖神は「塞(さえ、さい)の神」と呼ばれ、(さえ)とはさえぎるの意味で悪霊を防ぐ職能を持った神が本来の道祖神でした。しかし、その他にも、地域の実情によって多様な職能を持つようになっています。大まかにまとめると、

① 行疫神、厄除け神…

② 豊作・豊漁の神、道の神、旅人の守護神…

③ 縁結びの神、和合神、子授けの神、耳の神…

④ 人間界と幽冥界の境をつかさどる神のように、極めて即物的で複雑なものが特徴です。

信仰の始まりはいつ頃からですか。

いつの時代から、現在祀られているような道祖神が真鶴町内に祀られるようになったのか不明です。しかし、真鶴西地区の道祖神が祀られている台石に彫られている天保十五年(一八四四)からの、



しも下の道祖神 かつては、岩漁港に運ばれて鯛漁の大漁祈願に用いられたこともあった。

少なくともそれ以前から、このような形態のものがあつたと推定されます。

元来は、集落境や村境に祀られ、外から襲いくる疫病や悪霊をさえぎる神様であるとされていたようですが、またいろ

いろな願いごとを叶えてもらえる神様でもあるとされてきました。真鶴町内の道祖神像はほとんどが、僧形の形態となっ

ていることから、仏教の地藏信仰が混入されているのではないかという考えもありますが、それについての答えは出ていません。

言い伝えの一つに「さいの神さんは、

目次

特集 真鶴の石造物 (一) 道祖神

道祖神信仰の背景……………(1)

・どんな内容の神ですか……………(1)

・信仰の始まりは……………(1)

・道祖神と石……………(2)

真鶴の道祖神……………(2)

・真鶴道祖神の特徴……………(2)

・いつごろの造立か……………(2)

・祀られた場所から……………(2)

・真鶴での信仰は……………(2)

どんと焼き(道祖神と行事)……………(3)

・どのような祭りか……………(3)

・祭りの移り変わり……………(3)

道祖神の思い出……………(3)

郷土を知る会長 櫻井光夫……………(3)

真鶴の古道・道標・道祖神……………(4)

郷土研究・郷土学習……………(6)

・社会科の郷土学習から……………(6)

真鶴中学校……………(7)

・社会科の学習から……………(7)

真鶴小学校……………(7)

・郷土資料館の見学……………(7)

文化財審議委員会だより……………(8)

・七年度事業の概要……………(8)

・県外視察報告……………(8)

編集後記……………(8)

子供の神さんだから大人はさわるものじゃない。」という言葉がありますが、大人達が祈願をして欲しいことがあると、子供達に頼んで祈願してもらいました。この祈願をすることは戦争前までは、盛んに行われた行事でした。



城口(児童館前)道祖神

左側には、町重要文化指定の道標がある。

石の道祖神は多いのですか。

日本人は、神は、あるものに依り着く形で出現されると、古くから考えてきたといわれます。その神の依り着くものは、特定の場所や物であったりしました。

古代の道の神は、石または岩が多く、道の神の座す場所は、坂、境、道の分岐点などでした。神の依り着くものとしての「石」は、現在でも、祭祀の中で、石や岩そのものに神を迎える儀礼として多くの例が見られます。

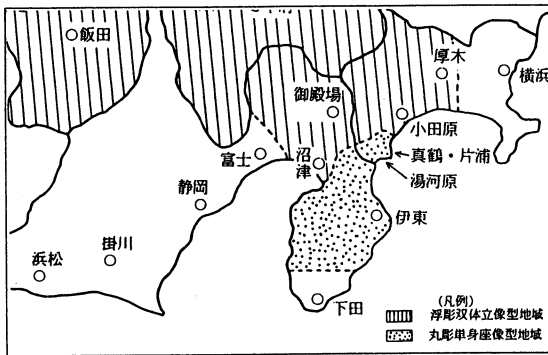
同様に、道祖神の神体も石製のものがほとんどで自然石や丸石、陰陽石などのほか、神石や神像を刻んだもの等が主な形態です。

真鶴の道祖神

真鶴の道祖神には、どんな特徴がありますか。

長坂の道祖神(大正十年造立)には、角柱像に浮彫りで「道祖神」と記されていますが、真鶴では、サイノカミ(訛ってセイノカミ)と言っていました。

真鶴地区に造立されている道祖神の十二体は単身で僧形の形態の像です。



道祖神の種類別分布略図(「真鶴の文化財」より)

(他の三体は文字のみ)これらの形態は真鶴近辺を北限とした伊豆地方の道祖神と、ほぼ同じ特徴をもっていることです。(伊豆型道祖神Ⅱ丸型単坐像地帯) 全国

の道祖神実態調査(昭和三十年代)によると、神奈川県は「双体像蜜分布地」とあり、二体を並べて彫り込む形態が県内のタイプとなりますが、真鶴の道祖神はタイプの違った、分布では伊豆の道祖神の仲間に入ることになります。また、このことは、真鶴の地区が伊豆の文化圏と民俗的なつながりをもっていたのではな

いかという示唆をも与えています。また、真鶴の道祖神を同じ伊豆の道祖神と比較してみると、像の石材が厚く、丸みが豊かだとも言われています。

いつごろ造立されたのですか。

真鶴の道祖神が造立された年代は、記録された中で古いものは西の道祖神で天保十五年(一八四四)です。あとは明治期(二体のうち一体は再建)、大正期(一体)、昭和期(二体)で、その他は年代が不明です。

道祖神に年代が記録される例は極めて少ない中で天保十五年の記録は極めて貴重な存在となっています。

なお、造立された場所は、現在地と異なっている道祖神もあります。中には二転三転という例もあります。(次ページの図示では、最初の造立場所◎↓で示

しました。)これは、住宅等の増加や新道開通などに関わり移転したことを示しています。

道祖神が祀られた場所からどんなことが分かりますか。

道祖神の職能から、村境や村外れの路傍に造立されたであろうことと、はたらかは違いますが、同じように路傍に立てられた道標とが真鶴の古の道標を示してくれるとともに村落の発展の跡を物語ってくれます。一例としてあげると、岩地区の上の道祖神は、現在の岩小学校の敷地内に造立されていたが、昭和十二年の火災で小学校の消失したとない、校舎新築と道路変更のため移転したことが分かっています。この上の道祖神の元の場所は、かつての岩村の村境であったことを示していますが、このことは岩村の村落が、この辺りから海岸よりにあったことと、漁業に深く関わっていた一面も教えてくれます。

道標も、真鶴地区には四か所に存在しています。(道標の移転も推定される元の場所を↓で表示しました。)これら道標から、真鶴の主要な道路をとらえることができます。

真鶴では、どのような信仰ですか。

疫病退散、豊漁祈願が主で、他には住民の個別な祈願等でした。疫病退散では、

社会科の郷土学習から

真鶴町立真鶴中学校

真鶴の伝統

露木拓哉

社会で真鶴について調べることになりました。まずテーマを決めました。ぼくは「貴船祭り」担当になりました。まず、図書室にいった本をさがすことにしました。そして「神奈川の祭り」という本を見つけた。もしかしたらと思って見てみたら、真鶴貴船神社の船祭りというのがページ半にわたって書かれていた。読んでみたらくわしくのっていました。ぼくは、この本を中心に調べることになりました。「なぜ貴船祭りをやるのか」や「貴船祭りに登場するもの」などやりました。特に「貴船祭りに登場するもの」は御座船や神迎船など、今まで知らないことがよく分かりました。さらに貴船祭りは「県指定無形民俗文化財」ということも分かりました。

真鶴の史跡を調べて

相蘇光洋

ぼくは、真鶴の色々な史跡を調べた。まず最初に、ビックリした二つの場所があった。その一つ目は龍門寺の宝篋印塔だった。ぼくは岩小學校に通っていたから、毎日のように龍門寺の宝篋印塔は見てきた。幼稚園に通っていた時は登ったりもしていた。しかし今回、龍門寺の宝篋印塔を調べて、ぼくは、とてもバチあたりな事をしたと思った。それは、この宝篋印塔は、なんと真鶴でとれる小松石で作った石塔では、なんと関東でも一番大きいものということだった。あと、もう一つビックリした所があった。それは荒井城址公園だ。この荒井城址公園は今だから公園として親しまれているが、昔は土肥氏の山城として役割をはたしたそう。ぼくは、このように色々な真鶴の史跡を調べたが、これだけ長い月日の歴史がある真鶴の史跡は絶対に、こわしてはいけないものだというのがわかった。



荒井城址公園

「真鶴の歴史」を調べてみて

露木秀美

真鶴のことを調べてみて、いろいろなことがわかりました。

まず、「風外ゆかりの天神堂」を調べてみて、今から三百年ほど前のお坊さんが書いただるまの絵が残っているなんてすごいと思う。お坊さんは真鶴の景色が気に入って石のほこらを作ったのだが、どんなにきれいな景色だったのだろうか？

次に「鵜の窟」について調べた。この場所に行ったことがあるが、池には水がなくあまりきれいな場所ではないが、「源頼朝」がそこにあった岩やにかくれ「しとど」と言う鳥のおかげで助かったことはすごいことだ。「しとど」と言う鳥を見てみたい。

三つ目は「釈迦堂遺跡」を調べました。釈迦堂と呼ばれている一帯は土器や石器などが出ることで知られています。米作りが始まる前の時代で海岸において魚や貝をとったり、山にはいって動物をつかまえたりして生活をする時に使った物が今も残っているなんてとてもすごい。物を大事にするにはすばらしいことだと思う。

最後は「石工先祖の碑」を調べた。平安時代の終りに石材業を始めた。江戸時代より前に始まっていたなんて……どんな道具を使っていたのだろうか？自分の住んでいる真鶴の町の知らなかった

た歴史のことがよくわかりました。

真鶴町を調べて

辰巳 梓

こんなに小さな真鶴町にも、いろいろな歴史が沢山ありました。その中で、私達グループの調べた真鶴町の歴史の中には、「風外ゆかりの天神堂」という、歴史がありました。もちろん私には全然聞いた事もない歴史でした。

調べてみると、そこには、こんな歌まで作られていました。

「雨コンコン降ってきて、天神堂の坊さん」

どんな曲だか分からないけど、なんだか想像がつくような歌でした。

他にも、私の知らない真鶴町の歴史はいっぱいあってびっくりしました。その歴史の中で唯一わたしの知っていた真鶴町の歴史は、「鵜の窟」と「石工先祖の碑」でした。

この歴史は、小学校のころ勉強したので、よく知っていました。

私は、真鶴町の歴史を調べてみて、こんな小さな町にも、こんなに歴史がいっぱいあることに一番びっくりしました。そして、真鶴に住んでいる人にでも分からない様な物まであり、びっくりしました。

でも、「これからは私達がこの町にいろいろな歴史を作っていかなきゃな。」と思いました。

社会科の学習から

真鶴小学校三年

町民センターの見学

藪田 絢子

わたしたちは、社会科で町民センターの勉強をしました。くわしく調べるために、町民センターに行き、館長さんにいろいろなお話を伺っていただきました。

一階は、老人福祉センターでした。老人福祉センターには、生活相談室やきのうの回ふくくん練室などの部屋があり、お年よりの人がいろいろなことに使っているということでした。

二階、三階が公民館でした。二階にはえつらん室や学習室など七つの部屋がありました。三階には、広い講堂やえい画を見たりする部屋もありました。

町民センターが、真づる町のたくさんの人たちに利用されていることを知り、これからも楽しい行事をやってほしいなと思いました。

商店がいの様子を調べて

青木 麻美子

私は、大道ジョイナス商店がいを調べました。

まず調べたことは、大道の所だけのお店で使えるジョイナスカードです。そのカードは百円以上の物を買うと、機かい

でマークがおされます。

カードにマークでたくさんになると五百円の品物を買うことができると西相信用金庫に預金することができのす。

これも大道ジョイナス商店がいが、たくさんの人たちに利用してもらうための工夫なんだなと思いました。

真鶴には、商店がいは大道ジョイナス商店がいと港へ向かう道にそった西仲商店がいの二つですが、これからも私たちの生活に役立ってほしいです。

真づるの昔を調べて

青木 はるか

私は、真づるの昔を調べて、いろいろなことがわかりました。一つは、子どもの様子です。ひいおばあちゃんのころの時代は、ふだんでも着物を着ていたけれど、今の時代は、着物なんかめったに着ません。でも着物は、古くから伝わってきて今の時代まで、ずっと生き続けているんだからすごいなと思いました。また遊びでは、昔は竹馬や石けりをしていたそうですが、私はファミコンなどをしていいます。でも今でも時々お手玉などもします。遊びでも昔から伝わっているものがあることがわかりました。私は、昔のものでも、今の時代にも役立つものがあるとうわかったので、これからも大切にしていこうと思いました。

郷土資料館の見学

岩小学校 三年

教育委員会の相磯達先生に講師になっていただき、郷土資料館を見学しました。

鈴木 淳

一番心にのこった物は、魚をつかまえるあみです。そのあみは、魚を行けなくして、まよいこませてつかまえる道具です。ぼくは、今でも使っているのかなと思います。つかっていたら見てみたいと思います。

高橋 理絵

わたしたちは、社会で昔の物を調べるために行きました。せつ明をきいていると、昔も今よりべんりな物がありました。みかんのせんべつ機が今よりべんりだと思いました。みかんのころがして、ペタルみたいのを回すだけでみかんの大きさが分けられます。

オルゴールはとくに感動しました。今

とちがって手で回すようになっていました。今にも音がなり出しそうでした。

ほかには、おひつがいいなと思いました。ごはんをたいたと入れるとおいしいうとせつ明してくれたので、食べてみたいと思いました。昔のことをいろいろ調べられてよかったです。

露木 翼

郷土し料館に入ってみると、今はないものばかりでした。おくに行ってみると真づるの古い写真がありました。その中に昔の岩小学校が写っていたのでうれしくなりました。へやに入るとそこには見たこともない物ばかりでした。でも電気せい品がないのがふしぎでした。

聞いてみると、

「昔は電気がなかったんだよ。」と、教えてくれました。昔のひとは苦労したんだなと思いました。

遠藤 まゆみ

郷土し料館には、私の知らない物がたくさんあってびっくりしました。私が一番気に入ったのは硯箱です。一つの箱にそろばんとかいろいろな物が入っていたからです。私はべんりな物があったんだなと思いました。

今では電気があって、ごはんをたいたりかんたんにできるけれど、昔は、電気がなかったので、すごく大へんだっただろうなと思いました。



(三頁からの続き)

縛する子供達の姿はまったく哀れそのものです。

こうした思い出の中には、近所の○○ちゃんが子供の遊びの「コマ」回しで、足を怪我してしまいました。それがもとで小学校三年生で亡くなった思い出です。二つ年上で学校に行けぬので留年して私と同じ学年で他界してしまつたのです。また、一つ年下の○○の○○ちゃんなど病魔におかされ、道祖神の前で大声を張り上げ祈るのも、むなしく他界してしまつたことも子供のときの悲しい思い出です。

郷土を知る会も、町史編さんには多大な協力をして無事完成させたのですが、郷土知る会、会誌「第一号」に「道祖神と昔の子供達」を執筆し、ここでは悲しい道祖神の思い出とは違って楽しいことを執筆しています。

その中の一文に、岩漁場から頼まれてのことなど「南無セイノ神さん、鰯うなぎがとれるように拝みます。頼みます。」と手を合わせ、大声を張り上げて道祖神に祈ったこと、時には防波堤の先端に立つて、漁船出航を見ながら大声で鰯の大漁祈願をした思い出も忘れぬ思い出となっています。当時の道祖神は、子供達の深い人生の思い出として、いまでも残っているのです。

(郷土を知る会・会長六十八才)

文化財審議委員会

だより

◎如来寺跡石窟石仏群等の文化財

未指定物件の調査

有名な閻魔大王像の他石窟内外の石造物について形態等の実測調査や彫られていた文字の判読など実地調査をし、文化財指定判断のための資料を得ました。今後の継続調査が予定されます。

◎文化財指定古文書の複製事業

龍門寺の所有する文化財指定文書について、次の文書を複製しました。

- ・末寺昌満寺関係文書(三通)
- ・末寺自泉院関係文書(二通)
- ・末寺書上げ文書、梵鐘再建寄付帳、諸入費帳、曹洞宗岩村戸数帳

◎町指定物件保存修理補助事業

龍門寺所蔵風外手跡十二幅のうち、半数六本の書についての修理です。



風外手跡(修理前)

風外道人は、江戸時代の初期に真鶴に住んでいた有名な禅僧です。

県外視察報告

文化財の保存、活用等について他市町の状況を調べ真鶴町の文化振興に寄与することを目的として、文化財審議委員四名と事務局一名が、十月二十三日～二十五日にかけて、信州方面の視察を行いました。

如来寺跡石仏群に関わりのある但唱上人についての調査が主目的で、信濃の壇特山こと「奇妙山」では、但唱上人が生活したと思われる洞窟や上人作とされる石仏に触れることができました。

他には、奇妙山平の石仏群・龜倉万庵寺の但唱作と塔中仏や奇妙山中での修業絵図・千体仏(木造仏)の見学の他、鬼無里歴史民俗資料館・念来寺鐘樓・西善寺三仏堂などの視察をしました。



郷土史研究家宮川氏の案内で奇妙山平の石仏群を尋ねる。

☆お知らせ

真鶴を、より理解してもらうために、小冊子「真鶴の文化散策 ちょっと尋ねてみませんか」34ページ(真鶴町教育委員会発行)が、三月末に発行される予定です。小冊子ですが、真鶴の文化財等を知るための好適な資料です。ご活用を期待します。

編集後記

◇文化財だより九号は、「真鶴の石造物」を特集、(一)として「道祖神」について紹介しました。道祖神については以前に他テーマとの関連で採り上げられてきましたが、今回は「真鶴の石造物」の視点からとらえ紹介してみました。

◇執筆には、文化財審議委員の皆様のご協力を得るとともに、櫻井光夫さん、川ノ辺昭治さん、川口仁齊さん、中路脩平さんには、資料提供や貴重な情報をいただきました。紙面を借りてお礼いたします。

◇町内小・中学校からは「郷土研究・郷土学習」の様子を寄せていただきました。明日の郷土を担う子ども達が郷土に関心を持ち、郷土を愛する人達に育っていく素地が育まれていることを感じました。